

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570300709		
法人名	有限会社愛宕福祉サービス		
事業所名	グループホーム愛宕荘		
所在地	宮崎県延岡市古城町4丁目634番地3 (電話) 0982-42-2658		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年11月28日

## 【情報提供票より】 (平成20年9月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 4年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤10人, 非常勤2人, 常勤換算6人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年9月16日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	2	要介護2	4
要介護3	7	要介護4	2
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 85.4歳	最低 74歳	最高 100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人日高胃腸科内科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地の中にありながら、自然豊かな愛宕山のふもと、斜面には四季の花々を植える等、利用者の目を楽ませる気遣いがされている。利用者はゆったりと自分のペースで過ごされており、職員は、目配り、気配り、心配りをモットーに、笑顔で寄り添うケアを心がけている。また、地区会に参加することで、地域の情報を知る努力をし、ホームの行事案内をして参加をお願いする等、地域に開放する工夫をしている。利用者が野菜の皮むきや食器洗い等に参加して一人ひとりの力を生かしており、職員も利用者から学ぶことが多いということで、共に過ごし支えあう関係を築いている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域への開放を目指し、日々努力されている。代表者は率先して、依頼される講演に出向き、認知症や、グループホームについて理解を求める取り組みをされている。評価の結果を受け、意見箱を設置するなど、改善できるところは改善するよう努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と参加できる職員で話し合いながら自己評価を作成し、勤務の都合で参加できなかった職員にも、記録に目を通してもらい、全員で質の向上へつなげる取り組みをした。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1度開催され、ホームの現状報告や、参加者より意見を頂いている。防災、火事等に詳しい方から助言を頂き、職員会にて検討し、それを生かす取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月に1度「愛宕荘便り」を発行し、その中に理事長の携帯電話番号を知らせ、苦情・相談等が出しやすいように工夫している。また、苦情や意見が出た場合は、職員会にて話し合い対応している。折に触れ、家族への電話連絡をするように心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区会に加入し、地域の情報把握に努め、ホームの行事への参加案内をしている。近隣の方から、野菜等を頂くことも多い。また、中学校の体験学習の受け入れもしている。地域からの講演依頼に出向き、認知症やグループホームについて理解を求める活動をしている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の勉強会で常に意識付けられており、管理者と職員は、理念を共有し、実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区に入会し、回覧板にて地域の情報を得ており、ホームの夏祭りや餅つきなど、地域へ参加案内の声かけをしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解しており、管理者と職員で話し合いながら行い、参加できない職員については、記録に目を通してもらっている。改善点を見だし、改善につなげる努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開かれており、ホームの現状報告や、参加者から意見を頂いている。防災や火災に詳しい方の助言を頂き、職員会につなげる等、そこでの意見を生かす取り組みをしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と、疑問に思うことや、書類等のことで連絡を取り合っているほか、施設見学の問い合わせ等もあり、連携している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、「愛宕荘便り」を発行し、来訪時にも近況報告をしている。電話連絡を密に取り、受診など必要な時には事前連絡をし、結果報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	便りに、理事長の携帯番号を載せ、相談苦情が寄せやすいようにしており、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独事業のため異動は少ないが、代わる場合には、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加しやすい勤務体制がとられ、資格取得にも勤務しながらできるように配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3回の県北グループホーム研修会にて意見交換をしている。月に1回、九州保健福祉大学で行われる、認知症の勉強会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接、ホームの見学をしてもらい、安心して生活できるように、家族と相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所仕事、洗濯物干し、洗濯物たたみ等、できる事を一緒にしている。梅干作り、ラッキョウ漬け、唐芋の植え付け、収穫と、知恵を頂くことが多く、気遣いを教わったり、癒されることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望があるときは意向に沿って行い、困難な場合は、寄り添いながら声かけし、本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の職員会で担当者の話を聞き、課題とケアのあり方について話し合い、それを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しと、変化に伴いその都度の話し合いも行われ、現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援、病院、理美容への送迎をしている。地域からの講演依頼を受け、認知症やグループホームについて、話に出向くこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回、嘱託医がホームに来診されている。希望によっては、掛りつけ医の受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りを経験されており、家族、医師との取り決め等、話し合いを基にマニュアル作成をされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	言葉かけや対応は、誇りやプライバシーに配慮されたものであり、徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、一日の過ごし方など、希望に沿った支援をされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、皮むき、野菜切り、食器洗い等、それぞれの力を生かしながら準備されており、食事を楽しむことのできる支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の入浴日の設定はなされているものの、希望にあわせ臨機応変に支援されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活力や力を生かし、趣味の料理、歌、踊り等で、役割や楽しみ事、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や、買物、ドライブ、植物園への外出等、機会作りをしている。	○	買物に関しては、利用者自身に財布を持たせて、利用者が買物を実感できるように支援をお願いしたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害は理解しているが、帰宅願望の強い利用者の不穏状態時は、家族の了解の下、玄関の鍵を掛けている。ベランダや窓は開放されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の防災緊急連絡網を作成し、近隣の方々に協力を得られるように声かけし、お願いしている。消防署の訓練研修に参加している。	○	火災訓練はされているものの、2階の利用者については、非常口までの誘導に止まっているので外までの誘導訓練をお願いしたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表を利用し食事摂取量、水分摂取量の確認をし、食欲低下が見られる場合には、好みの食品提供をしている。年1回は献立に専門職のアドバイスを受けており、職員にも調理師の資格を有している者がいる。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花々が飾られ、生活感、季節感、清潔感があり、居心地の良い空間作りがされている。体操時の音量が少し高いように感じたが、元気を出してもらうために、その時間だけボリュームを上げるとのことである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、好みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせる工夫がされている。また、神棚や、遺影も持ち込まれ、それぞれに生活されている。		

※  は、重点項目。